

《プロフィール》 佐久総合病院副診療部長地域ケア科医長

1992年3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業

1992年6月～3月 杏林大学附属病院救急医学教室

1993年6月 スリランカを中心に1年間

ボランティア・フィールドワーク

1994年9月 佐久総合病院研修医

1996年5月 長野県厚生連下伊那診療所出向

1999年4月 佐久総合病院地域ケア科

2002年4月 佐久総合病院地域ケア科医長

2008年4月 佐久総合病院副診療部長

佐久総合病院老人保健施設副施設長

2009年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野

非常勤講師（兼務）

現在に至る



☆好きな言葉

「白鳥葦花に入る」

（下村湖人の小説

『次郎物語』

第3部に初出）

がん哲学外来市民学会第1回大会に寄せる思い

いよいよ、市民自らが主体となり運営・活動できる学会が産声をあげます。

今の日本では、病気となるとついつい病院や医療従事者が主導権を握ってしまい、当事者である患者やご家族は受身になってしまいがちです。

この学会を通して医療の主役は患者であることを今一度再認識し、新しい医療のあり方を皆で構築して行きたいと考えております。特に「がん」はこれからますます多くの市民が関わる疾患であるからこそ、そして「命に関わる」疾患であるからこそ、皆で大事に考えたいと思います。

これからの世の中、いつ自分が又は自分の家族が又は自分の友人が「がん」になっても、おかしくありません。その時になって慌てなくても良いように、またその時になってすぐに駆け込める場所となれるように、この市民学会が市民の皆様にとっての拠り所となればと考えております。

今回はその大切なスタートです。皆さん、一緒にその記念すべき誕生の瞬間に立ち会ってください、そして自らも一緒に産まれてください。この学会は皆さんが当事者の学会です。より良い拠り所となれるように、皆さんと一緒に生きて成長して行きましょう。